多文化便り第三号

時々、発行

体験で学ぶ地球環境論「富士山清掃」

アクティビティ系科目の教室外活動の先陣を切って、「体験で学ぶ地球環境論」の富士山清掃が実施された。NPO法人「富士山クラブ」の企画に参画するという形で、7月6日（日）に山梨県鳴沢村の青木ヶ原樹海で清掃作業は実施され、56名の学生が参加した。その3週間前から実施に向けての授業が行われ、野口健客員教授や富士山クラブのスタッフから綿密な事前指導を受けた上で当日の作業に臨んだ。

当日午前9時に亜大に参加者全員が揃い、バス一台で予定通り出発し、11時には目的地に到着。開会式で野口客員教授らからの諸注意を聞き、行動を共にする山梨県の富士山レインジャーの紹介が行なわれた後、作業開始。作業現場は、周囲は木々や草で覆われていながら、そこだけは土がむき出しのテニスコート一面ほどの平地であった。産業廃棄物が捨てられ、その上に土が被せられており、行なった作業は埋まっているゴミの掘り出し、即ち「ゴミ掘り」であった。予め決めてあった12の班（各班4、5名）に分かれ、シャベルやヘラを用い、銘々ゴミに挑んだ。

作業は30分単位で、数分の休憩を挟み、正味90分実施。慣れない作業であったと思われるが、出てくるゴミに驚きながら参加者は各々労を惜しむことなく奮闘し、楽しそうでさえあった。「戦利品」はコンクリート、金属、ビと種類別に回収したが、得体の知れないものも含め種々雑多なものが出てきた。中には男子学生のグループが90分かけて掘り、そして引き抜こうとしても埒があかなかったパイプ状の金属もあった。

90分の作業を終えると、記念撮影をし、解散式。帰路は中央高速道路で渋滞に巻き込まれ、往路の倍近い時間がかかり、18時30分亜大着。天候にも恵まれ（前後の日は雨模様ながら、この日は雨は上がり、野外での労働にはうってつけの曇天）、富士山清掃の初年度実施は無事に終了した。

なお、清掃実施後の3週の授業は報告書の作成およびその発表にあてられ、9月26日に報告会が学内外公開で催された。富士山清掃に参加して知ったこと、考えたことについて、12の班が各々の報告を披露した。その中で特に目にとまった班の報告書は、山梨県に提出される運びである。

（N・）

フィールドからの手紙（ベトナム編）

今年度（平成26年度）から開講した多文化フィールドスタディーにて、ベトナム中部のホイアンに学生7名と行きました。ホイアンは、一九九九年に歴史的な木造建築の街並みがユネスコ世界遺産に登録されて、観光地として大きく発展しました。

今回のフィールドワークでは、観光地ホイアンの現状を理解するべく、観光客・地元の人（主としてお土産物屋や観光関連業に従事する人）などへアンケート・インタビュー調査を実施しました。学生はグループに分かれて、事前のアポイントメント（つまり、教員側のお膳立て）なしで調査に臨みました。

ホイアン到着当初は暑さや日差しの強さにダウンしていた学生たちですが、調査を始めると積極的に課題に取り組むようになりました。もちろん聞き取り調査をお願いしても断られることなどもあり、必ずしも順調に進んだわけではありません。それでも学生たちは、消極的にならずに次の対象者へとアプローチしました。教室とは違う「外」の世界で困難に直面した時に次の一歩を踏み出せる積極性や現場適応力を身につけてもらえれば、今回の海外フィールドワークはひとまず成功だったと考えています。

（会安）

ホイアンの街並み

参加した学生（ホテルの中庭にて）

会場設置係募集！

10月31日 9時～13時 多文化マーケット会場設定

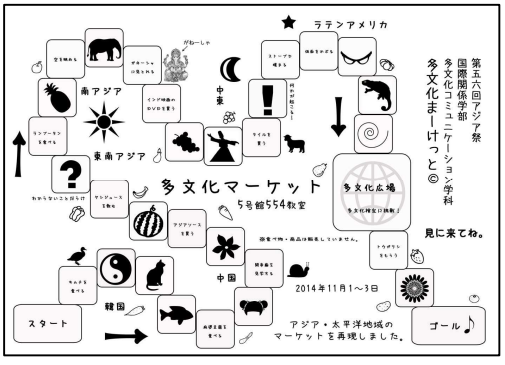
11月4日 9時～15時 多文化マーケット片付け

軍手とおやつ付き

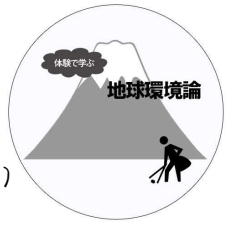
希望者は9月29・30日18時 227教室へ

学科・学部問わず！力自慢の友だちを連れて来て

多文化マーケット展示品作成
9月29日～10月3日
227教室 18～19時



オープンキャンパス用配布チラシ



富士山シール（通称）

編集担当 熊愚須